

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「【情報】目的に応じて引用するとき」 教材名「【情報】目的に応じて引用するとき」

2 単元の目標

情報と情報との関係づけのしかたを理解し使うことができる。（〔知識及び技能〕(2)イ）

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。（B(1)エ）

目的に合う箇所を選び、引用と自分の考えを区別して文章に組み込む学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係づけのしかたを理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ）	①「書くこと」において、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)エ）	①目的に合う箇所を選び、引用と自分の考えを区別して文章に組み込む学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

目的に合う箇所を選び、引用と自分の考えを区別して文章に組み込む。この教材では、出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

学校図書館の本や一次資料で出典を確かめる。配布案には既存の言葉を転載せず、題名・著者・出典の記録欄と、選んだ理由・経験の欄を分けて用意する。想定する難しさは、ネット画像だけで発言者を決める、引用だけで自分の理由を書かない。評価では、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しているかを、出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 紹介する目的と言葉の出典を確かめる。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本 時）	○紹介する目的と言葉の出典を確かめる。自分の経験との関係を図にする。伝える理由に合う材料を選ぶ。引用と自分の考えを分けて紹介を書く。読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(B(1)エ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 ○「この引用は、自分のどの考えを説明するために必要ですか」 【めあて】目的に合う箇所を選び、引用と自分の考えを区別して文章に組み込む。 〈予想される児童の反応〉 ・有名だからではなく、自分の経験と合うところを知らせたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「この引用は、自分のどの考えを説明するために必要ですか」 紹介する目的と言葉の出典を確認める。自分の経験との関係を図にする。伝える理由に合う材料を選ぶ。引用と自分の考えを分けて紹介を書く。 読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・有名だからではなく、自分の経験と合うところを知らせたい。 ・紹介する言葉と自分の意見を分けたい。 ・だれの言葉か確かめる必要がある。	学校図書館の本や一次資料で出典を確認める。配布案には既存の言葉を転載せず、題名・著者・出典の記録欄と、選んだ理由・経験の欄を分けて用意する。 想定する難しさ：ネット画像だけで発言者を決める、引用だけで自分の理由を書かない。 評価では、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しているかを、出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認める。 〈予想される児童の反応〉 ・だれの言葉か確かめる必要がある。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認める。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この引用は、自分のどの考えを説明するために必要ですか」。中央は、出典を確認した記録、紹介する目的、経験との関係、自分の紹介文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

